

注3

大学番号：私348

[平成22年度設置]

計画の区分：学部の設置

注1

認可

梶山女学園大学 看護学部

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 梶山女学園
平成23年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

総務部長 コ バヤシ ツグ アキ
小林 嗣 明

（係員 ナカ イ アツ ヒト
中 井 厚 仁）

電話番号 052-781-4317(直通)

（夜間） 同上

F A X 052-781-8831

e-mail soumuka@m1.sugiyama-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は認可時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

認可時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には認可時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部
(□□学部)

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

「意見伺い」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成23年3月11日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目 次

1	調査対象大学等の概要等	1～4
2	授業科目の概要	5～8
3	施設・設備の整備状況、経費	9
4	既設大学等の状況	10
5	教員組織の状況	11～18
6	留意事項に対する履行状況等	19～22
7	その他全般的事項	23～30

(資料) 1 スクールバス時刻表

2 入学定員の超過状況 (国際コミュニケーション学部)

3 椋山女学園大学全学FD委員会規準

4 看護学部の設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 相山女学園

(2) 大学名

相山女学園大学

(3) 大学の位置

愛知県名古屋市千種区星が丘元町17番3号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	認可時	変更状況	備考
理事長	(スギヤマ マサ ヒロ) 相山正弘 (平成17年4月1日)		
学長	(ノブチ タツ オ) 野淵龍雄 (平成20年4月1日)		
学部長	(ゴトウ セツ コ) 後藤節子 (平成22年4月1日)		
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成20年度に報告済の内容 → (20)
平成23年度に報告する内容 → (23)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は, 平成20年度開設の4年制の学科の場合(平成23年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
看護学部 看護学科 学士(看護学)	4年	100人	0人	400人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	(-) [-]	100 (-) [-]	(-) [-]	100 (-) [-]	(-) [-]	1.04倍				
志願者数	(-) [-]	665 (-) [-]	- (-) [-]	728 (-) [-]	- (-) [-]					
受験者数	(-) [-]	644 (-) [-]	(-) [-]	700 (-) [-]	- (-) [-]					
合格者数	(-) [-]	222 (-) [-]	(-) [-]	288 (-) [-]	- (-) [-]					
B 入学者数	(-) [-]	105 (-) [-]	(-) [-]	104 (-) [-]	- (-) [-]					
入学定員超過率 B/A	-		-		1.05		1.04			

- (注) ・ ()内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで**記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。
 ・ 「平成23年度」には, 平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
 ・ 「平成20~22年度」には, 確定した数値を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		備 考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
1年次	[-] -	[-] -	[-] -	[-] -	[-] 105	[-] -	[-] 104	[-] -		
2年次	/		[-] -	[-] -	[-] -	[-] -	[] 105	[]		
3年次			/		/		[-] -	[-] -	[-] -	[-] -
4年次							/		/	
計			[-] -	[-] -	[-] 105	[-] 209				

(注) ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学整数**を記入してください。
- ・ 「平成23年度」には、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
- ・ 「平成20～22年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	在学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成20年度 (平成20年4月1日～ 平成21年3月31日)	計 []	(累積)計 []	%
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
(主な退学理由) ※平成23年度開設のため該当なし			
平成21年度 (平成21年4月1日～ 平成22年3月31日)	計 []	(累積)計 []	%
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度 人	
(主な退学理由) ※平成23年度開設のため該当なし			
平成22年度 (平成22年4月1日～ 平成23年3月31日)	計 [0]	(累積)計 [0]	0%
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度 人	
	うち平成22年度入学者 0人	うち平成22年度 105人	
(主な退学理由) ※該当なし			

(注)・各年度の退学者数・在学者数については、該当年度間(例えば、平成22年度であれば、平成22年4月1日から平成23年3月末まで)の状況を記載してください。また、数字については確定した数値を記入してください。

- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度における退学者数】を、【当該対象年度の入学者数+当該対象年度前年度までの確定した在学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。なお、参考までに例示を添付しますので、そちらをご参照ください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
 - ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通科目	人間論	1前	2			2							
教養教育科目	思想と表現	哲学	1・2後		2								
		文学	1・2前		2								
		芸術	1・2後		2								
		心理	1前	2			1						
		人類学	1・2前		2								
	歴史と社会	歴史	1・2後		2								
		日本国憲法	1前 1後	2									より教育効果の高い時間割編成のため開講期別を変更(22)
		教育	1・2前		2		1						
	自然と科学技術	環境の科学	1・2前		2								
		生命の科学	1前	2									
		自然の科学	1・2前 1・2後		2								より教育効果の高い時間割編成のため開講期別を変更(22)
		物理の世界	1・2前 1・2後 1・2後 1・2前		2								より教育効果の高い時間割編成のため開講期別を変更(22) より教育効果の高い時間割編成のため開講期別を変更(23)
		化学の世界	1・2後		2								
	数理と情報	数理の世界	1・2前		2								
		統計の世界	1・2前 1・2後		2								より教育効果の高い時間割編成のため開講期別を変更(22)
		コンピュータと情報	1前	2									
		コンピュータと情報(応用)	1後		2								
	言語とコミュニケーション	外国語(英語)Ⅰ	1前	1									
		外国語(英語)Ⅱ	1後	1									
		外国語(英語)Ⅲ	1・2前		1								
		外国語(英語)Ⅳ	1・2後		1								
		外国語(中国語)Ⅰ	1・2前		1								
		外国語(中国語)Ⅱ	1・2後		1								
外国語(ポルトガル語)Ⅰ		1・2前		1									
外国語(ポルトガル語)Ⅱ		1・2後		1									
健康運動とスポーツ	健康運動の科学と実践	1後	2										
ファーストイヤーゼミ	ファーストイヤーゼミ	1前	1			11	8	7	2	14 14	教育環境の充実のため、補助担当として助手を追加(22) 教育環境の充実のため、補助担当として助手を追加(23) 専任教員1名(講師)退職により、担当教員の一部変更 担当：西田友子(講師) 平成23年7月 提出予定		
専門教育科目(専門基礎科目)	人間の理解	人間関係論	1後	2									
		ボランティア論	2前	1									
		倫理学(バイオエシックス)	1後	1			1						
		臨床心理学	1後	1									
		カウンセリング論	2後	1									
		言語表現と伝達	1前		1								
		人体の構造機能学Ⅰ(総論)	1前	2			1						
		人体の構造機能学Ⅱ	1前	1			1						
		人体の構造機能学Ⅲ	1後	1			1						
		栄養代謝学(生化学を含む。)	1後	1			1						
		生体防御学(免疫学)	2前	1			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
人間と健康	疾病治療論Ⅰ（総論）	1後	2			1					
	疾病治療論Ⅱ（成人・老年）	1後	1			2					
	疾病治療論Ⅲ（成人・老年）	2前	1			1					
	疾病治療論Ⅳ（母性・小児）	1後	1			2					
	栄養治療論（食品学を含む。）	2前	1			1					
	医療薬理学	2後	1			1					
	リハビリテーション論	1後	1			1					
	性差保健医学	4後		1		1					
	医療活動と協働	4後		1							
人間と環境	感染予防学（微生物学）	2前	1			1	1				
	感染予防学演習	3前	1			1	1				
	社会福祉学	1前	2								
	公衆衛生学	2前	1			1					
	保健統計学	2前	1			1					
	疫学	2後	2			1		2			専任教員1名（講師）退職により、担当教員の 一部変更(23) 担当：西田友子（講師） 平成23年7月 提出予定
	保健福祉行政論	3前	2			1					
	保健医療概論	3前		1		1					
	養護概論	2前		2							
基礎看護学	看護学概論（看護理論を含む。）	1前	2			1					
	看護倫理	1前	1			1					
	フィジカルアセスメント学演習	2前	1				2		1	4	
	看護過程展開方法論（ケースメソッドを含む。）	2前	1					1	1	4	
	看護過程展開論演習（ケースメソッドを含む。）	2後	1				2	1	1	4	
	コミュニケーション技術論演習	1後	1			1				4	
	基礎看護技術学演習Ⅰ（安全・安楽確保の援助技術）	1後	1			1	2	1		4	
	基礎看護技術学演習Ⅱ（生活行動の援助技術）	1後	1			1	1	1	1	4	
	基礎看護技術学演習Ⅲ（診療援助技術）	2前	1			1	1	1	1	4	
	看護健康教育論	3前		2		2	1	4			
成人・老年看護学	療養支援看護学概論（成人・老年）	2前	2			1	2				
	療養支援看護論Ⅰ（急性期・回復期・周手術期）	2後	1			1	1				
	療養支援看護論Ⅱ（慢性期・老年期）	2後	1				2	2			
	療養支援看護論Ⅲ（終末期）	3後		1			1				
	療養支援看護論演習Ⅰ（成人期）	3前	1			1	2	1		5	
	療養支援看護論演習Ⅱ（老年期）	3前	1				1	1		2	
母性・学小児看護	母子支援看護学概論（小児・母性）	2前	2			1		1	1		
	母子支援看護論Ⅰ（小児）	2後	1			1		1			
	母子支援看護論Ⅱ（母性）	2後	1					1	1		
	母子支援看護論演習Ⅰ（小児）	3前	1			1		1		2	
	母子支援看護論演習Ⅱ（母性）	3前	1					1	1	3	
地域・在宅・精神看護学	地域・在宅・精神看護学概論	2前	2			1	1				
	地域看護支援技術論	2後	1				1	1			専任教員1名（講師）退職により、担当教員の 一部変更(23) 担当：西田友子（講師） 平成23年7月 提出予定
	在宅看護支援論	2前	1			1	1				
	精神看護支援論（精神健康障害を含む。）	2後	1				1	1			
	在宅精神看護論	2後		1			1	2			
	地域看護行政・管理論	3前	2			1	2				
	地域看護活動実践論	2後	2				1	1			専任教員1名（講師）退職により、担当教員の 一部変更及び別担当教員の担当範囲の変更(23) 担当：西田友子（講師） 平成23年7月 提出予定 担当：西谷直子（准教授） 平成23年7月 提出予定

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
地域・在宅・精神看護学	地域健康教育指導論	3前	1				1	1				専任教員1名（講師）退職により、担当教員の 一部変更(23) 担当：西田友子（講師） 平成23年7月 提出予定	
	地域・在宅看護学演習	3前	1			1	2	1		4		専任教員1名（講師）退職により、担当教員の 一部変更(23) 担当：西田友子（講師） 平成23年7月 提出予定	
	精神看護技術学演習	3前	1				1	1		2			
	臨地実習	早期体験実習	1前	1			1	3	2	1	8		
		基礎看護技術学実習	2後	1			1	2	1	1	8		
		看護過程展開論実習	3前	1			1	2	1	1	13		
		慢性期成人看護学実習	3～4通年	3			1	2	1		5		
		急性期成人看護学実習	3～4通年	3			1	1	1		3		
		老年看護学実習	3～4通年	2				1	1		4		
		小児看護学実習	3～4通年	3			1		1		2		
		母性看護学実習	3～4通年	2					1	1	4		
		精神看護学実習	3～4通年	2				1	1		2		
		在宅看護学実習	3～4通年	2			1	1	0 4		5		専任教員1名（講師）の退職による担当教員数 の一部変更(23)
	総合看護学	地域公衆衛生看護学実習	3～4通年	3			1	2	1		5		専任教員1名（講師）退職により、担当教員の 一部変更(23) 担当：西田友子（講師） 平成23年7月 提出予定
総合実習		4前	1			1		1	1	10			
総合看護学	看護管理学（リーダーシップ論を含む。）	3前	2			1							
	家族看護学	3前	2			1	2	2	1				
	国際看護論	4後		1									
	災害看護学	4後	1										
	リスクマネジメント（安全・管理）	2後	1										
	総合技術論演習	4後	1			1	2	1	1				
	統合看護論	4後	2			4	4	6				専任教員1名（講師）退職により、担当教員の 一部変更(23) 担当：西田友子（講師） 平成23年7月 提出予定	
	原書講読・研究序論	3後	1			11	8	7	2			専任教員1名（講師）退職により、担当教員の 一部変更(23) 担当：西田友子（講師） 平成23年7月 提出予定	
看護研究（卒業論文）	4通年	2			10	8	7	2			専任教員1名（講師）退職により、担当教員の 一部変更(23) 担当：西田友子（講師） 平成23年7月 提出予定		

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時（平成22年度に認可された大学等は設置認可時）より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。（今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。）
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記載する必要がなかった学部等（平成19年度認可以前）についても、設置認可時の状況を黒字で記載してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても、「(1) 授業科目表」にはその状況を反映させてください。（ただし、「(3) 未開講科目」欄には記載する必要はありません）。

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
81	28	0	109	81	28	0	109	
				[-]	[-]	[-]	[-]	

(注) ・未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
	該当なし					

(注) ・設置認可時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。(ただし、未開講科目があった場合は、(1)「授業科目表」にその状況を反映させてください。)

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
	該当なし					

(注) ・設置認可時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = 0$$

(注) ・小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考					
校 地 等	校舎敷地	60,770.00 m ² 48,296.76 m²			60,770.00 m ² 48,296.76 m²	運動場については校舎敷地と別地（バス12分）					
	運動場用地	71,051.00 m ² 52,275.00 m²			71,051.00 m ² 52,275.00 m²						
	小 計	131,821.00 m ² 100,571.76 m²			131,821.00 m ² 100,571.76 m²	昨年度の当該学部的位置するキャンパスのみから、大学全体に対象変更(23)					
	そ の 他	1,269.66 m ² 2,781.24 m²			1,269.66 m ² 2,781.24 m²						
	合 計	133,090.66 m ² 103,353.00 m²			133,090.66 m ² 103,353.00 m²						
(2) 校 舎	専 用	78951.94 m ² (78951.94 m ²)	共 用	共用する他の学校等の専用	78951.94 m ² (78951.94 m ²)	昨年度の当該学部的位置するキャンパスのみから、大学全体に対象変更(23)					
		50,464.78 m ² (50,464.78 m²)			50,464.78 m ² (50,464.78 m²)						
(3) 教 室 等	講 義 室	84室	演 習 室	57室 61室	実験実習室	90室	情報処理学習施設	26室 (補助職員11人)	語学学習施設	0室 (補助職員0人)	※減少の理由は？
	(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数						
		看護学部 看護学科		36 室							
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本				
		〔うち外国書〕	〔うち外国書〕	電子ジャーナル							
	看護学部	349,781 (79,023) 343,390 (78,404) (349,781 (79,023)) (343,390 (78,404))	2,021 (640) 2,011 (639) (2,021 (640)) (2,011 (639))	6 (4) 5 (1) 6 (4) 5 (1)	18742 18324 18,742 (18,324)	5,505 (5,505)	108 (108)	平成22年度取得・処分等による変更(23)			
	計	349,781 (79,023) 343,390 (78,404) (349,781 (79,023)) (343,390 (78,404))	2,021 (640) 2,011 (639) (2,021 (640)) (2,011 (639))	6 (4) 5 (1) 6 (4) 5 (1)	18,742 (18,324) (18,742) (18,324)	5,505 (5,505)	108 (108)				
(6) 図 書 館		面 積	閱 覧 座 席 数	取 納 可 能 冊 数							
		3,427.97 m ²	440 席	323,789 冊							
(7) 体 育 館		面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要								
		3,980.94 m ²	テ ニ ス コ ー ト 6 面	ゴ ル フ 練 習 場 20 打 席							
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開 設 年 度	完 成 年 度	区 分	開 設 前 年 度	開 設 年 度	完 成 年 度	1. 共同研究費 (1) Aは学部の教員を対象とし、配分は学部長が教員の希望を取りまとめ教授会で決定する。 (2) Bは全学の教員を対象とし、委員会配分を取りまとめ、学長が決定する。 2. 開設年度以降の図書購入費及び設備購入費については、新規事業予算としての見積りはない。経常費予算の中で必要額を予算化して対応する。		
		教員1人当り研究費等	実験系 862千円 非実験系 579千円	実験系 862千円 非実験系 579千円	図書購入費	6,021千円	5,000千円	5,000千円			
	共同研究費等	A 3,000千円 B 15,000千円	A 3,000千円 B 15,000千円	設備購入費	458,136千円	0千円	0千円				
	学生1人当り納付金	第1年次 1,900千円	第2年次 1,700千円	第3年次 1,700千円	第4年次 1,700千円	第5年次 — 千円	第6年次 — 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等								

- (注) ・ 設置認可時の計画を、認可申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成23年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(23)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	椋山女学園大学								備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
生活科学部 管理栄養学科	4	120	—	480	学士 (生活科学)	1.08	昭和24	名古屋市千種区星が丘元町17番3号	平成19年度から食品栄養学科の専攻（食品栄養学専攻及び管理栄養士専攻）を廃止し管理栄養学科に名称変更 平成19年度から入学定員を変更（食品栄養学科135人→管理栄養学科120人）	
生活環境デザイン学科	4	132	2年次 2 3年次 3	540	学士 (生活科学)	1.10	昭和24			
国際コミュニケーション学部 国際言語コミュニケーション学科	4	105	3年次10	440	学士 (国際コミュニケーション学)	1.13	平成15			
表現文化学科	4	95	3年次10	400	学士 (国際コミュニケーション学)	1.18	平成15			
人間関係学部 人間関係学科	4	120	3年次 8	496	学士 (人間関係学)	1.21	昭和62	愛知県日進市岩崎町竹ノ山37番234	平成19年度から入学定員を変更（150人→120人） 平成19年度から3年次編入学定員を変更（15人→8人）	
心理学科	4	100	3年次 8	416	学士 (人間関係学)	1.20	平成14			平成19年度から臨床心理学科を心理学科に名称変更 平成19年度から臨床心理学科の3年次編入学定員を変更（15人→8人）
文化情報学部 文化情報学科	4	120	3年次 2	484	学士 (文化情報学)	1.14	平成12	名古屋市千種区星が丘元町17番3号	平成23年度より入学定員（200人）を120人に変更。 平成25年度より3年次編入学定員（5人）を2人に変更。	
メディア情報学科	4	120	3年次 3	486	学士 (メディア情報学)	1.16	平成23			平成23年度開設年次進行中
現代マネジメント学部 現代マネジメント学科	4	170	—	680	学士 (マネジメント)	1.15	平成15			
教育学部 子ども発達学科	4	147	2年次 2 3年次 3	600	学士 (教育学)	1.17	平成19			
看護学部 看護学科	4	100	—	400	学士 (看護学)	1.04	平成22			平成22年度開設年次進行中

（注）・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が、既に設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校等の学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。（専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。）

・届出書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。

・「定員超過率」には、過去標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで（小数点第3位を切り捨て）を、学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）の記載は不要です。

・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「—」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) 担当教員表

認可時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	教授	後藤 節子	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ 倫理学(バイオエシックス) 疾病治療論Ⅳ(母性・小児) 性差保健医学 原書講読・研究序論						
専	教授	石井 英子	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ 看護健康教育論 地域・在宅・精神看護学概論 在宅看護支援論 地域看護行政・管理論 地域・在宅看護学演習 在宅看護学実習 地域公衆衛生看護学実習 統合看護論 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						
専	教授	太田 美智男	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ 栄養代謝学(生化学を含む。) 生体防御学(免疫学) 栄養治療論(食品学を含む。) 感染予防学(微生物学) 感染予防学演習 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						
専	教授	木村 美智子	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ 看護学概論(看護理論を含む。) 基礎看護技術学演習Ⅰ (安全・安楽確保の援助技術) 基礎看護技術学演習Ⅱ (生活行動の援助技術) 基礎看護技術学演習Ⅲ (診療援助技術) 看護健康教育論 早期体験実習 基礎看護技術学実習 看護過程展開論実習 総合技術論演習 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						
専	教授	栗田 孝子	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ 看護倫理 コミュニケーション技術論演習 看護管理学 (リーダーシップ論を含む。) 総合実習 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						
専	教授	後藤 宗理	平成22年4月	人間論 心理 教育 ファーストイヤーゼミ 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						
専	教授	柴山 健三	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ リハビリテーション論 療養支援看護学概論(成人・老 療養支援看護論Ⅰ (急性期・回復期・周手術期) 療養支援看護論演習Ⅰ(成人期) 慢性期成人看護学実習 急性期成人看護学実習 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						

認可時の計画				変更状況					備考	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月		担当授業科目名
専	教授	菅屋 潤壹	平成23年4月	ファーストイヤーゼミ 人体の構造機能学Ⅰ(総論) 人体の構造機能学Ⅱ 人体の構造機能学Ⅲ 疾病治療論Ⅱ(成人・老年) 医療薬理学 統合看護論 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						
兼任	講師	菅屋 潤壹	平成22年4月	人体の構造機能学Ⅰ(総論) 人体の構造機能学Ⅱ 人体の構造機能学Ⅲ 疾病治療論Ⅱ(成人・老年)						
専	教授	田邊 恵子	平成23年4月	ファーストイヤーゼミ 母子支援看護学概論(小児・母性) 母子支援看護論Ⅰ(小児) 母子支援看護論演習Ⅰ(小児) 小児看護学実習 家族看護学 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)	専	教授	田邊 恵子	平成23年4月		一身上の都合により、就任が遅延(22) ※平成22年度開講科目「ファーストイヤーゼミ」は他の教員が担当する。他科目は平成23年度以降開講のため、支障はない。
専	教授	鳥居 修平	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ 疾病治療論Ⅰ(総論) 疾病治療論Ⅱ(成人・老年) 疾病治療論Ⅲ(成人・老年) 保健医療概論 統合看護論 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						
専	教授	中島 正夫	平成23年4月	人間論 ファーストイヤーゼミ 疾病治療論Ⅳ(母性・小児) 公衆衛生学 保健統計学 疫学 保健福祉行政論 統合看護論 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						
兼任	教授	中島 正夫	平成22年4月	人間論 疾病治療論Ⅳ(母性・小児)						
専	准教授	荒井 淑子	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ 療養支援看護学概論(成人・老年) 療養支援看護論Ⅱ(慢性期・老年期) 療養支援看護論演習Ⅱ(老年期) 早期体験実習 老年看護学実習 家族看護学 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						
専	准教授	石原 由華	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ 感染予防学(微生物学) 感染予防学演習 フィジカルアセスメント学演習 看護過程展開論演習(ケースメソッドを含む。) 基礎看護技術学演習Ⅰ(安全・安楽確保の援助技術) 基礎看護技術学演習Ⅲ(診療援助技術) 早期体験実習 基礎看護技術学実習 看護過程展開論実習 家族看護学 総合技術論演習 統合看護論 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	宇佐美 久枝	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ 療養支援看護学概論(成人・老年) 療養支援看護論Ⅱ (慢性期・老年期) 療養支援看護論Ⅲ(終末期) 療養支援看護論演習Ⅰ(成人期) 慢性期成人看護学実習 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						
専	准教授	熊澤 千恵	平成23年4月	ファーストイヤーゼミ 地域・在宅・精神看護学概論 精神看護支援論(精神健康障害を含む。) 在宅精神看護論 精神看護技術学演習 精神看護学実習 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						
専	准教授	小島 重子	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ 看護健康教育論 療養支援看護論Ⅰ (急性期・回復期・周手術期) 療養支援看護論演習Ⅰ(成人期) 慢性期成人看護学実習 急性期成人看護学実習 統合看護論 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						
専	准教授	高植 幸子	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ フィジカルアセスメント学演習 看護過程展開論演習 (ケースメソッドを含む。) 基礎看護技術学演習Ⅰ (安全・安楽確保の援助技術) 基礎看護技術学演習Ⅱ (生活行動の援助技術) 早期体験実習 基礎看護技術学実習 看護過程展開論実習 総合技術論演習 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						
専	准教授	西谷 直子	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ 地域看護行政・管理論 地域看護活動実践論 地域健康教育指導論 地域・在宅看護学演習 地域公衆衛生看護学実習 統合看護論 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						青石恵子講師の一身上の都合による辞任により、一部科目にオムニバス・共同担当科目の分担に変更が生じるため、平成23年7月変更書提出予定(23)
専	准教授	肥田 佳美	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ 地域看護支援技術論 在宅看護支援論 地域看護行政・管理論 地域・在宅看護学演習 在宅看護学実習 地域公衆衛生看護学実習 統合看護論 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						
専	講師	青石 恵子	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ 疫学 地域看護支援技術論 地域看護活動実践論 地域健康教育指導論 地域・在宅看護学演習 在宅看護学実習 地域公衆衛生看護学実習 統合看護論 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)	専	講師	西田 友子	平成23年9月	ファーストイヤーゼミ 疫学 地域看護支援技術論 地域看護活動実践論 地域健康教育指導論 地域・在宅看護学演習 地域公衆衛生看護学実習 統合看護論 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)	平成23年3月 青石恵子講師の一身上の都合による辞任により、平成23年9月より担当者の変更(23) 平成23年7月 変更書提出予定(23)

認可時の計画				変更状況					備考	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月		担当授業科目名
専	講師	井野 恭子	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ 看護過程展開方法論 (ケースメソッドを含む。) 看護過程展開論演習 (ケースメソッドを含む。) 基礎看護技術学演習Ⅰ (安全・安楽確保の援助技術) 基礎看護技術学演習Ⅱ (生活行動の援助技術) 基礎看護技術学演習Ⅲ (診療援助技術) 早期体験実習 基礎看護技術学実習 看護過程展開論実習 総合実習 総合技術論演習 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						
専	講師	大嶋 光子	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ 精神看護支援論 (精神健康障害を含む。) 在宅精神看護論 精神看護技術学演習 精神看護学実習 家族看護学 統合看護論 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						
専	講師	田中 結花子	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ 看護健康教育論 療養支援看護論Ⅱ (慢性期・老年期) 療養支援看護論演習Ⅱ(老年期) 早期体験実習 老年看護学実習 統合看護論 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						
専	講師	中嶋 文子	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ 看護健康教育論 母子支援看護学概論(小児・母性) 母子支援看護論Ⅱ(母性) 母子支援看護論演習Ⅱ(母性) 母性看護学実習 統合看護論 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						
専	講師	深谷 久子	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ 看護健康教育論 母子支援看護論Ⅰ(小児) 母子支援看護論演習Ⅰ(小児) 在宅精神看護論 小児看護学実習 家族看護学 統合看護論 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						
専	講師	星野 純子	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ 疫学 看護健康教育論 療養支援看護論Ⅱ(慢性期・老年期) 療養支援看護論演習Ⅰ(成人期) 慢性期成人看護学実習 急性期成人看護学実習 統合看護論 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						
専	助教	奥川 ゆかり	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ 母子支援看護学概論(小児・母性) 母子支援看護論Ⅱ(母性) 母子支援看護論演習Ⅱ(母性) 母性看護学実習 家族看護学 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	助教	佐藤 好恵	平成22年4月	ファーストイヤーゼミ フィジカルアセスメント学演習 看護過程展開方法論 (ケースメソッドを含む。) 看護過程展開論演習 (ケースメソッドを含む。) 基礎看護技術学演習Ⅱ (生活行動の援助技術) 基礎看護技術学演習Ⅲ (診療援助技術) 早期体験実習 基礎看護技術学実習 看護過程展開論実習 総合実習 総合技術論演習 原書講読・研究序論 看護研究(卒業論文)			原 好恵			氏名変更(22)
兼任	教授	上嶋 正博	平成22年4月	人間論						
兼任	教授	岡田 敦	平成22年4月	臨床心理学 カウンセリング論						
兼任	教授	加藤 益幹	平成22年4月	歴史						
兼任	教授	北岡 崇	平成22年4月	哲学						
兼任	教授	高阪 謙次	平成22年4月	人間論						
兼任	教授	佐藤 厚子	平成22年4月	言語表現と伝達						
兼任	教授	武長 脩行	平成23年4月	ボランティア論						
兼任	教授	三井 悦子	平成22年4月	健康運動の科学と実践						
兼任	教授	渡邊 毅	平成22年4月	人間関係論						
兼任	准教授	三木 邦弘	平成22年4月	統計の世界						
兼任	准教授	藤岡 阿由未	平成23年4月	文学 芸術						
兼任	講師	藤岡 阿由未	平成22年4月	文学 芸術						
兼任	講師	小杉 裕子	平成22年4月	芸術						
兼任	講師	大西 祥世	平成22年4月	日本国憲法	兼任	講師	手塚 崇聡	平成22年4月	日本国憲法	平成22年4月 前任者退職による担当者の 変更(22)
兼任	講師	吉本 明宣	平成22年4月	数理の世界						
兼任	講師	中尾 友紀	平成22年4月	社会福祉学						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	椋山 正弘	平成22年4月	人間論						
兼任	講師	井嶋 廣子	平成25年4月	災害看護学						
兼任	講師	伊藤 明子	平成25年4月	国際看護論						
兼任	講師	内山 靖	平成22年4月	リハビリテーション論						
兼任	講師	大井 正己	平成23年4月	精神看護支援論 (精神健康障害を含む。)						
兼任	講師	川泉 文男	平成22年4月	化学の世界						
兼任	講師	河辺 義信	平成22年4月	コンピュータと情報(応用)						
兼任	講師	Keith John Vargo	平成22年4月	外国語(英語) I	兼任	講師	Miller Rachel Marie	平成22年4月	外国語(英語) I	平成22年4月 前任者辞退による担当者 変更(22)
					兼任	講師	Hayward Dianne Louise	平成23年4月	外国語(英語) I	平成23年4月 前任者(Miller Rachel Marie)辞退による担当者の 変更(23)
兼任	講師	北坂 孝幸	平成22年4月	コンピュータと情報						
兼任	講師	重松 由美	平成22年4月	外国語(ポルトガル語) I 外国語(ポルトガル語) II						
兼任	講師	杉崎 隆一	平成22年4月	環境の科学						
兼任	講師	杉本 百合香	平成23年4月	リスクマネジメント (安全・管理)						
兼任	講師	関 巖	平成22年4月	健康運動の科学と実践						
兼任	講師	高野 智	平成22年4月	人類学						
兼任	講師	田中 俊雄	平成23年4月	養護概論						
兼任	講師	張 素芳	平成22年4月	外国語(中国語) I 外国語(中国語) II						
兼任	講師	中島 晴子	平成22年4月	生命の科学						
兼任	講師	中野 典子	平成22年4月	栄養代謝学 (生化学を含む。) 栄養治療論 (食品学を含む。)						
兼任	講師	西牟田 祐美子	平成22年4月	外国語(英語) III 外国語(英語) IV						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	Philip Gerard Colley	平成22年4月	外国語(英語)Ⅱ	兼任	講師	Nathan Tracey Lee	平成22年9月	外国語(英語)Ⅱ	平成22年9月 前任者辞退による担当者 変更(22)
兼任	講師	三浦 昌子	平成25年4月	医療活動と協働						
兼任	講師	森 滋夫	平成22年4月	自然の科学						
兼任	講師	八巻 哲示	平成22年4月	物理の世界	兼任	講師	安田 淳一郎	平成23年4月	物理の世界	平成23年4月 前任者辞退による担当者 変更(23)
兼任	講師	山口 清	平成22年4月	健康運動の科学と実践						
					兼任	講師	許 麗	平成22年4月	外国語(中国語)Ⅰ	平成22年4月 履修者増加によるクラス追 加(23)
								平成22年9月	外国語(中国語)Ⅱ	平成22年9月 開講クラス増による担当者 の追加(23)
					兼任	講師	Delve Michael Robert	平成22年4月	外国語(英語)Ⅰ	平成22年4月 クラス編成の都合による担 当者の追加(23)
								平成22年9月	外国語(英語)Ⅱ	平成22年9月 クラス編成の都合による担 当者の追加(23)
					兼任	講師	Kjeldgaard,Marie Christine	平成23年4月	外国語(英語)Ⅰ	平成23年4月 前任者(Delve Michael Robert)辞退による担当者 の変更(23)
					兼任	講師	石井 直宏	平成23年4月	コンピュータと情報(応 用)	平成23年4月 前任者の担当コマ数減に よる担当者の追加(23)

(注)・認可申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。

- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- ・ 年齢は、「認可時の計画」には開設時現在の満年齢(科目就任時の満年齢ではありません)を、「変更状況」には平成23年5月1日現在の満年齢を記入してください。
- ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
また、「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出し、教員判定の結果が出ていない場合は「〇年〇月変更書提出済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
- ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。
- ・ 専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。

(2) 専任教員数

認可時の計画						変更状況						備考
教授	准教授	講師	助教	計	助手	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
11	8	7	2	28	22	11	8	7	2	28	22	
(9)	(7)	(7)	(2)	(25)	(15)	[]	[]	[]	[]	[]	[]	

(注)・「認可時の計画」には、設置認可時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成23年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置認可時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)

(3) 専任教員交代の理由

番号	職位	専任教員氏名	辞任(就任辞退を含む)等の理由
1	講師	青石恵子	本人の一身上の都合による。
2			
3			

(注)・設置認可時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

平成23年3月末日をもって、上記専任教員が一身上の都合により本学を退職した。このことによる影響として、当該教員が担当していた(担当する予定であった)科目については、本年度前期開講科目「ファーストイヤーゼミ」は他の教員が担当するため、支障はない。本年度後期以降の開講科目への対応については、後任の教員を補充するため、平成23年7月のAC教員審査に提出する予定である。学生への周知等については、掲示、学生用電子ジャーナル等の手段を用いて、必要な情報を適宜発信している。また、当該教員が学生生活指導教員(学生の学修・生活指導の相談・対応等を担当)として担当していた学生については、他教員が分担して担当するなど、学生の不利益とならないよう努めている。

(注)・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
認 可 時 (21年11月)	<p>1. 運動場が別地にあることから、教育に支障のないようにすることはもとより、学生の課外活動等に配慮すること。</p> <p>2. 国際コミュニケーション学部表現文化学科の入学定員超過の是正に努めること。</p>	<p>学生の通学のほか、スポーツの授業、学生の課外活動のためにキャンパス間にスクールバスを運行し、対応している（平日：約20分間隔）。(22)【資料1】</p> <p>学生の通学のほか、スポーツの授業、学生の課外活動のためにキャンパス間にスクールバスを運行し、対応している（平日：約20分間隔）。(23)【資料1】</p> <p>入学予定者の歩留率についての推計が甘く、現在国際コミュニケーション学部表現文化学科の平均入学定員超過率が1.30となっている。入学定員超過率を各年度1.0倍に抑えるべく、歩留率の推計の精度を上げて、別紙のとおり平均入学定員超過率の是正に努めている。(22)【資料2】</p> <p>入学予定者の歩留率についての推計が甘く、現在国際コミュニケーション学部表現文化学科の平均入学定員超過率が1.30となっている。入学定員超過率を各年度1.0倍に抑えるべく、歩留率の推計の精度を上げて、別紙のとおり平均入学定員超過率の是正に努めている。(23)【資料2】</p>	
設置計画履行状況 調 査 時 (23年2月)	該当なし		

(注) ・ 「認可時」には、当該大学等の設置認可時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
- ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	「早期体験実習」（1年次・1単位）について、実習先医療機関との協議の結果、実習を円滑に実施し、学生の学習効果を高めるため、実習時の補助者配置を充実することが望ましいとの結論に達し、設置認可時の専任担当教員7名（全員判定済「可」）及び補助者である助手8名に加えて、教員3名及び助手3名を補助者として追加配置することとした。このうち、追加配置となる教員は、助手と同様に、あくまで設置認可時の専任担当教員の指揮の下に実習の補助を担当するものであり、直接学生等の指導を行うものではない。なお、今後完成年度に向けて助手の採用数が増加する予定であるため、本措置は平成22年度限りの対応である。
	「保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令」（平成23年文部科学省・厚生労働省令第1号）の施行に伴う学則（教育課程）変更承認申請を平成23年7月に提出する予定である。

- (注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>[全学的な取り組み]</p> <p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p> 全学FD委員会を設置</p> <p> 全学FD委員会規準 添付(別紙3)</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p> ○全学FD委員会委員の任期：平成22年5月1日～平成23年4月30日</p> <p> 第1回：平成22年 4月27日(火) 出席委員11名</p> <p> 第2回：平成22年 5月25日(火) 出席委員11名</p> <p> 第3回：平成22年 6月22日(火) 出席委員10名</p> <p> 第4回：平成22年 9月28日(火) 出席委員10名</p> <p> 第5回：平成22年 11月30日(火) 出席委員11名</p> <p> 第6回：平成23年 2月16日(火) 出席委員11名</p> <p> 第7回：平成23年 3月23日(水) 出席委員 9名</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p> 第1回</p> <p> 1. 学長からの提案（報告）</p> <p> 2. 平成21年度「リフレクション・ペーパー」の閲覧状況について（報告）</p> <p> 3. 平成22年度前期授業アンケートの実施について（報告）</p> <p> 4. 平成21年度全学FD委員会予算の執行報告について（報告）</p> <p> 5. 平成22年度全学FD予算について（報告）</p> <p> 6. 引継ぎ事項について（報告）</p> <p> 7. 平成22年度全学FD委員会委員長の選出に関する件</p> <p> 8. 平成22年度全学FD委員会活動に関する件</p> <p> 9. 平成22年度前期授業アンケートの実施に関する件</p> <p> 10. その他</p> <p> 第2回</p> <p> 1. 平成22年度前期授業アンケートの実施について（報告）</p> <p> 2. 平成22年度全学FD委員会予算について（報告）</p> <p> 3. 平成22年度全学FD委員会活動に関する件</p> <p> 4. その他</p> <p> 第3回</p> <p> 1. 平成21年度後期授業アンケートの実施状況資料の訂正について（報告）</p> <p> 2. 平成22年度全学FD委員会活動に関する件</p> <p> 3. その他</p> <p> 第4回</p> <p> 1. 平成22年度前期授業アンケートの実施状況について（報告）</p> <p> 2. 平成22年度前期リフレクション・ペーパー提出状況について（報告）</p> <p> 3. リフレクション・ペーパー再依頼について（報告）</p> <p> 4. 平成22年度前期授業アンケートの意見書について（報告）</p> <p> 5. 平成22年度FD研修会実施状況について（報告）</p> <p> 6. 平成22年度全学FD委員会活動に関する件</p> <p> 7. 平成22年度全学FD委員会予算に関する件</p> <p> 8. その他</p>

第5回

1. 平成22年度前期リフレクション・ペーパー提出状況について（報告）
2. 平成22年度フレクション・ペーパーの閲覧状況について（報告）
3. 平成22年度前期授業アンケートの意見書（追加提出分）について（報告）
4. 平成22年度第1回FD講演会の実施状況について（報告）
5. 平成22年度第2回FD講演会について（報告）
6. 平成23年度シラバス様式について（報告）
7. 平成23年度予算について（報告）
8. 平成22年度全学FD委員会予算の執行について（報告）
9. 平成22年度教育研究研修会について（報告）
10. 平成22年度教員相互の授業参観について（報告）
11. 平成22年度全学FD委員会活動報告書に関する件
12. その他

第6回

1. 平成23年度予算について（報告）
2. 平成22年度全学FD委員会予算の執行状況について（報告）
3. 平成22年度教育研究研修会について（報告）
4. 平成22年度教員相互の授業参観について（報告）
5. 平成22年度全学FD委員会活動報告書について（報告）
6. 平成22年度授業アンケートに関する件
7. 平成23年度新任教員研修に関する件
8. その他

第7回

1. 平成22年度予算について（報告）
2. 平成23年度新任教員研修について（報告）
3. 平成23年度授業アンケートに関する件
4. 学園研及び科研費の獲得者による研究報告会の位置付けに関する件
5. その他

② 実施状況

a 実施内容

<授業評価アンケート>

b 実施方法

<授業評価アンケート>

1. 実施の目的

授業が学生にどのように受け止められているのかの全体的傾向を理解し、教員に対して授業の質的向上のヒントを提供することを目的とする。

2. 実施時期

平成22年6月21日（月）～6月26日（土）（予備日）

平成22年6月28日（月）～7月3日（土）

平成22年7月5日（月）～7月10日（土）（予備日）

3. 対象科目

平成22年度前期開講の授業科目のうち、卒業研究、集中講義及び受講者が10名以下の科目を除く科目の中から学部の特設委員会が選定した科目を対象として実施する。（専任教員は2科目以上、非常勤講師は1科目以上実施する。）

4. 実施方法

○4月上旬に教員に対し、実施要領を配布する。

○学生へ授業アンケートの実施について学生支援システムのジャーナル機能を利用し通知。

○対象科目ごとに封入された授業アンケート調査用袋を各学部事務室、教員のメールボックスに配布。

○授業時間内に実施。時間は15分～20分。学生がアンケートに回答している間は、匿名性が保たれるよう、十分に配慮する。

○実施済みのアンケート用紙は、学部事務室まで提出。

c 実施状況（教員の参加状況含む）

<授業評価アンケート>

○実施対象科目数765科目の内、695科目で実施した。（90.8%）

○実施教員数は、446名であった。（94.5%）

○「リフレクション・ペーパー」（「授業についてのアンケート調査」結果を踏まえた授業評価）の提出者は、323名であった。（72.4%）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

<授業評価アンケート>

○教員による「リフレクション・ペーパー」（「授業についてのアンケート調査」結果を踏まえた授業評価）を科目ごとに作成し、学生支援システムを使用して、PDF版冊子を当該学部の学生に対し閲覧可能とした。（学生のアクセス数は、合計5,767件であった。）

○授業アンケート結果を踏まえた自己点検・授業評価（冊子）を作成し教員同士が閲覧できるようにした。

○授業アンケートの分析結果を掲載した、全学FD委員会活動報告書（PDF版）を大学のホームページに公開した。

a 実施内容

<新任教員研修開催>

b 実施方法

<新任教員研修開催>

開催日：平成22年4月1日 他

・着任時の研修・ガイダンス：事務関係（本学ポータルサイト、コースナビ、教務事項他）

・授業に対する内容：学部・学科ごとに実施。

・実施状況の記録。

・新任教員からの要望があれば授業参観を実施する。

・継続した相談窓口（学部長・学科主任が対応）

a 実施内容

<FD研修会の開催>

c 実施状況

<FD研修会の開催>

●科学研究費取得のための研修会

- ・日 時：平成22年7月21日（水）17：00～18：20
- ・場 所：国際コミュニケーション学部棟206教室
- ・内 容：科学研究費補助金を獲得するために採択事例と不採択事例を比較し採択されるためのヒントを示します
- ・報告者：塚田 守 国際コミュニケーション学部教授（基盤研究）
「科研申請書の評価のされ方を、具体的事例に即して報告。」
石原 健吾 生活科学部講師（若手研究）
「不採択事例を豊富に示し、初めての採択に至るまでの経験を紹介。」
加藤 容子 人間関係学部准教授（研究成果公開促進費）
「不採択後に採択された博士論文出版の事例を紹介。」
- ・参加者：67名

●FD研修会

- ・日 時：平成22年9月15日（水）
第1回：11：30～12：30
第2回：13：00～14：00
- ・場 所：生活科学部棟B206教室（第1回）、同棟B110教室（第2回）
- ・内 容：第1回「国際コミュニケーション学部FD活動報告」－「教育の質保証」のための非常勤講師へのオリエンテーション
第2回「S*mapを利用したeラーニングシステムの活用実践報告」
※知識の定着と学習内容への興味づけを図るために、eラーニングによる復習テストとレポート提出は有効でした。しかし、長所も短所もあり、驚くようなエピソードもありましたので、失敗談を語りながらeラーニングの良さを紹介したい。
- ・報告者：大浦 誠士 国際コミュニケーション学部教授（第1回）
水島 和則 国際コミュニケーション学部教授（第1回）
坂本 徳弥 教育学部准教授（第2回）
- ・参加者：158名（第1回44名、第2回114名）

●授業支援システム講習会～S*mapを授業に活用しよう～（情報支援課との共催）

- ・日 時：平成22年9月15日（水）15：30～17：00
- ・場 所：文化情報学部メディア棟240教室
- ・内 容：S*map授業支援システムの簡単な操作方法を実技講習。
※予習／復習のサポート：教材提示、レポート提出
※参加型授業のサポート：小テスト、簡易アンケート
- ・参加者：72名

●教育研究研修会

- ・学部学科内での授業の質向上のために小グループでの研修を行った。

実施件数：14件

●教員相互の授業参観と相互評価

- ・学部学科内での教員相互の授業参観を行った。（非常勤講師の参加も含む。）

- ・学部を超えた、教員相互の授業参観を行った。

実施件数：14件

a 実施内容

<FD講演会の開催>

c 実施状況

<FD講演会>

第1回FD講演会

- 開催日：平成22年10月1日（木）17：00～18：30
- 対象者：大学の教育職員、大学の非常勤講師（希望者）、事務職員（希望者）
- 場 所：本学星が丘キャンパス生活科学部棟B110講義室
- 講 師：神戸大学 川嶋 太津夫 教授
- テーマ：「質保証の観点からみた大学の教育力向上への取組」
- 参加者：教員70名、事務職員4名、合計74名であった。

第2回FD講演会

- 開催日：平成22年12月2日（木）17：00～18：30
- 対象者：大学の教育職員、大学の非常勤講師（希望者）、事務職員（希望者）
- 場 所：本学星が丘キャンパス生活科学部棟B106講義室
- 講 師：中部大学 小林礼人 准教授
- テーマ：「伝えたい思いをわかりやすい授業へ—伝えたい内容がきちんと伝わる授業にするためのヒントを紹介する—」
- 参加者：教員50名、事務職員2名、合計52名であった。

[看護学部としての取り組み]

本年度は、学部開設当初でもあり、学部の整備に力点を置くとともに、学部運営に必要な事項を学部全体で共有し、学部教員が円滑な授業運営や研究活動を展開できるような活動内容を企画し実施した。

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- 看護学部FD委員会を設置
- 構成員：学部長、学部教員3名

b 委員会の開催状況

- 第1回 平成22年4月9日（金）出席者2名
- 1. 平成22年度前期授業アンケート調査について
- 2. 学部としての方針
- 3. その他

- 第2回 平成22年4月22日（木） 出席者2名
 1. 平成22年度前期授業アンケート調査の実施項目について
 2. その他
- 第3回 平成22年5月17日（月） 出席者3名
 1. 平成22年度学部FD委員会活動計画について
 2. 平成22年度学部FDの予算計画について
 3. その他
- 第4回 平成23年1月19日（木） 出席者2名
 1. 平成22年度学部FD活動報告について
 2. その他
- ② 実施状況
- a 実施内容
 平成22年度看護学部FD研修会および情報交換会
- b 実施方法
 指定規則一部改正に伴うカリキュラム検討会、実習に向けての教員間の相互理解に関する研修会、科研費取得に関する講演等を行った。
- c 開催状況
- 平成22年4月13日（火） 10:00～10:30 参加者数30名
 テーマ 「電子ジャーナルの仕組みと操作方法について」
 講師 EBSCO Publishing Japan社員
- 平成22年5月25日（火） 10:00～10:30 参加者数27名
 テーマ 「保健師助産師看護師学校養成所指定規則等の一部改正に伴う看護教育について（第1回）」
 講師 看護学部 石井英子教授
- 平成22年6月7日（月） 10:00～10:30 参加者数27名
 テーマ 「保健師助産師看護師学校養成所指定規則等の一部改正に伴う看護教育について（第2回）」
 講師 看護学部 後藤宗理教授、西谷直子准教授、中嶋文子講師
- 平成22年6月21日（月） 10:40～11:40 参加者数30名
 テーマ 「臨地実習における感染防止対策研修会－感染防止対策マニュアルについて－」
 講師 看護学部 太田美智男教授
- 平成22年6月28日（月） 10:00～12:20 参加者数28名
 テーマ 「保健師助産師看護師学校養成所指定規則等の一部改正に伴う看護教育について（第3回）」
 講師 看護学部 石井英子教授
 発表：佐藤晶子助手、長谷川信子助手、中神友子助手、今別府志帆助手、川上友美助手、黒木千恵助手
- 平成22年6月29日（火） 16:40～18:10 参加者数20名
 テーマ 「病院における看護活動の実際－早期体験実習に向けて－」
 講師 名古屋大学医学部付属病院 副看護部長 植村真美氏、教育専任看護師長 稲垣裕子氏
- 平成22年7月1日（木） 9:30～10:30 参加者数28名
 テーマ 「科学研究費取得に向けての考え方及び進め方に関する講演会」
 講師 看護学部 太田美智男教授
- 平成22年7月8日（木） 10:00～11:30 参加者数27名
 テーマ 「臨床研究に関する賠償責任保険の説明会（実施レポート報告を含めて）」
 講師 看護学部 栗田孝子教授（研究倫理審査委員長）、損保ジャパン社員
- 平成22年7月13日（火） 16:40～17:30 参加者数20名
 テーマ 「在宅（老人保健施設）における看護活動の実際－早期体験実習に向けて－」
 講師 ブラザー健保組合 老人保健施設 瑞穂 ケアサービス部看護介護長 濱口征子氏
- 平成22年11月18日（木） 10:00～11:30 参加者数30名
 テーマ 「保健師助産師看護師学校養成所指定規則等の一部改正に伴う看護教育について（第4回）」
 講師 看護学部 柴山健三教授（カリキュラム検討委員長）
- 平成23年3月17日（木） 10:00～11:30 参加者数36名
 テーマ 「保健師助産師看護師学校養成所指定規則等の一部改正に伴う看護教育について（第5回）」
 講師 看護学部 柴山健三教授（カリキュラム検討委員長）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
 別紙（資料4）のとおり
- ② 自己点検・評価報告書
 現在、平成22年度に行なった大学事業の自己点検・評価報告書である「大学年報（第15号）」を刊行する予定で準備を進めている。
- a 公表（予定）時期
 平成23年10月下旬（予定）
- b 公表方法
 ・大学のインターネットホームページ上に公開する。
 ・大学年報を刊行し、専任教職員、官公庁及び他大学に配付する。
- ③ 認証評価を受ける計画
 ・財団法人大学基準協会による「平成18年度相互評価ならびに認証評価」を受け、平成19年3月13日付けで「適合」の判定を受けた。（有効期限：平成26年3月31日）
 ・看護学部については、次回の認証評価においてその対象となる予定である。

(4) 情報提供に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成 2 3 年 7 月)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www.sugiyama-u.ac.jp/daigaku/annai/shinsei.html>)

(注) ・ 「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。
なお、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス : d-secchi@mext.go.jp
件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先(〇〇大学)」としてください。

【平成23年4月7日(木)~】

星が丘方面スクールバス時刻表（月曜日～金曜日）

※始発便の発車場所は星が丘自動車学校です。

●は一社東経由

乗車時：飲食厳禁・学生証提示

日進キャンパス →	一社東 →	星が丘キャンパス →	一社東 →	日進キャンパス着
星が丘自動車学校から随時発車		→ 8:25~8:40		8:45~9:00
9:00		9:20		9:35
● 9:20	● 9:30	● 9:40		● 9:55
9:40		10:00		10:15
● 10:00	● 10:10	● 10:30		● 10:45
10:20		10:40		10:55
● 10:45	● 10:55	● 11:05		● 11:20
11:00		11:20		11:35
● 11:20	● 11:30	● 11:40		● 11:55
11:40		12:00		12:15
12:00		12:20		12:35
12:20		12:40		12:55
● 12:30	● 12:40	● 12:50	● 12:55	● 13:10
12:40		13:00		13:15
13:00		13:20		13:35
13:20		13:40		13:55
13:40		14:00		14:15
● 14:00	● 14:10	● 14:20	● 14:25	● 14:40
14:20		14:45		15:00
14:40		15:00		15:15
● 15:00	● 15:10	● 15:20	● 15:25	● 15:40
15:20		15:40		15:55
15:40		16:00		16:15
16:00		16:20		16:35
16:20		16:40		16:55
● 16:40		● 17:00	● 17:05	● 17:20
16:40		17:00		17:15
17:00		17:20		17:35
● 17:30		● 17:50	● 17:55	● 18:10
18:00		18:20		18:35
● 18:20		● 18:40	● 18:45	● 19:00
▲ 18:50		19:10		

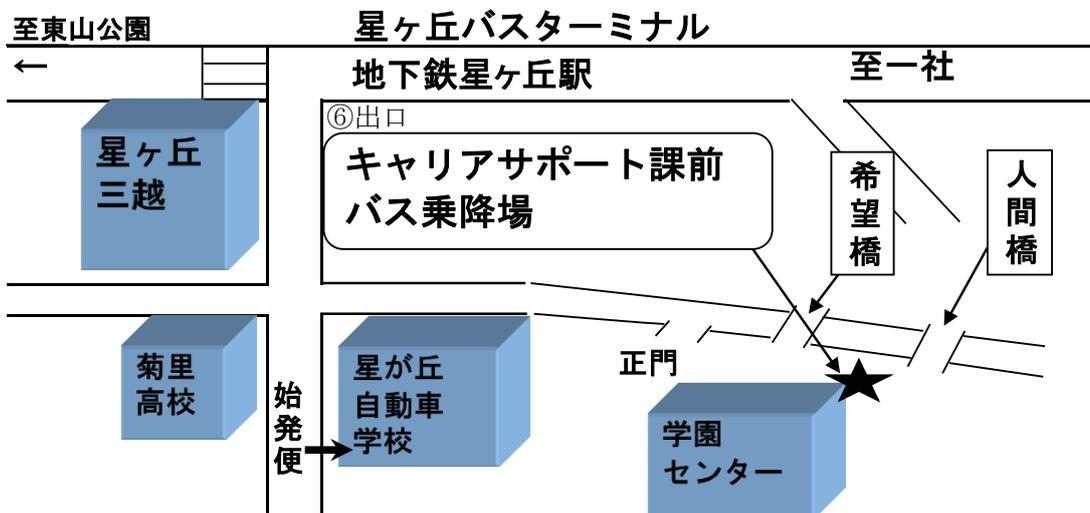
星が丘方面スクールバス時刻表（土曜日）

※すべてキャリアサポート課前からの乗降車になります

日進キャンパス →	一社東	→ 星が丘キャンパス	→ 一社東	→ 日進キャンパス着
		8:40		9:00
● 9:00	● 9:10	● 9:20		● 9:35
9:40		10:00		10:15
● 10:00	● 10:10	● 10:20		● 10:35
10:30		10:50		11:05
● 11:00	● 11:10	● 11:20		● 11:35
11:30		11:50		12:05
12:00		12:20		12:35
● 12:30		● 12:50	● 12:55	● 13:10
13:00		13:20		13:35
14:00		14:20		14:35
15:00		15:20		15:35
16:00		16:20		16:35
● 17:00		● 17:20	● 17:25	● 17:40
▲ 17:40		18:00		

<利用上の注意>

- ①バスは途中、「極楽」交差点近くで乗降車できます。（詳細場所は学内掲示で確認のこと）
利用する場合は、車内から確認できるよう大きく手を上げてください。極楽停車場通過時間は、星が丘キャンパスからおおよそ10分前後を目安としてください。日進キャンパス発一星が丘キャンパス行、特に一社東経由においては、「高針台中東」交差点付近での降車となる場合があります。
- ②天候や道路状況等により遅延着になる場合があります。
- ③星が丘方面は乗車人数も多く、特に8:40、10:30、13:00のスクールバスは満車で乗車できなくなることが予測されますので、早めの便に乗車してください。
- ④▲は日進キャンパスで利用者がいない時は運休します。



入学定員超過の状況

椋山女学園大学

学部等名	項目	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
国際コミュニケーション学部 (合計)	入学定員超過率	(1.28)	(1.30)	(1.20)	(1.28)	(1.03)	(1.13)	(1.00)	(1.00)
	入学者数	256	260	241	256	206	227	200	200
	入学定員	200	200	200	200	200	200	200	200
国際言語コミュニケーション学科	入学定員超過率	(1.28)	(1.23)	(1.16)	(1.21)	(1.02)	(1.16)	(1.00)	(1.00)
	入学者数	135	130	122	128	108	122	105	105
	入学定員	105	105	105	105	105	105	105	105
表現文化学科	入学定員超過率	(1.27)	(1.36)	(1.25)	(1.34)	(1.03)	(1.10)	(1.00)	(1.00)
	入学者数	121	130	119	128	98	105	95	95
	入学定員	95	95	95	95	95	95	95	95
平均定員超過率(過去4年)	国際コミュニケーション学部				1.26	1.20	1.16	1.11	1.04
	国際言語コミュニケーション学科				1.22	1.16	1.14	1.10	1.05
	表現文化学科				1.30	1.24	1.18	1.11	1.03

椋山女学園大学全学FD委員会規準

平成12年大規準第4号

平成12年5月16日制定

(趣旨)

第1条 この規準は、椋山女学園大学におけるファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development) に関する事項を円滑かつ有効に推進するために設置する全学FD委員会 (以下「委員会」という。) について必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、前条の趣旨を実現するため、ファカルティ・ディベロップメントに関する次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 企画・立案に関する事項
- (2) 必要な研究調査に関する事項
- (3) 学部間の連繋及び調整に関する事項
- (4) 研究会、講演会及び教員研修等に関する事項
- (5) 大学間の連携等に関する事項
- (6) その他学長が特に必要と認める事項

(委員会)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 学長が指名する学長補佐
 - (2) 各学部のFD委員会の委員 各1名
 - (3) 学長が指名する者 若干名
- 2 前項第2号及び第3号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 3 第1項第2号の委員に欠員が生じた場合には、その都度委員を補充しなければならない。この場合において、補充による委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員会に、委員長を置き、委員長は学長補佐をもって充てる。

(会議)

第4条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長は会議の議長となる。

- 2 会議は、各学部1名以上の委員を含む委員の過半数の出席により成立する。
- 3 会議には、議長が必要と認めた場合、委員以外の者を陪席させることができる。

(事務)

第5条 委員会の事務は、教務課が行う。

(学部委員会)

第6条 各学部に学部FD委員会を設置するものとする。

- 2 前項の学部FD委員会の構成、委員長の選任方法及び委員の任期については、当該学部の教授会において定める。

(規準の改廃)

第7条 この規準の改廃は、委員会が発議し、大学協議会の議を経て学長が決する。

附 則

この規準は、平成12年5月16日から施行する。

附 則 (平成19年大規準第8号)

この規準は、平成19年9月1日から施行する。

附 則 (平成22年大規準第9号)

この規準は、平成22年4月1日から施行する。

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

椋山女学園大学
看護学部

(現状の説明)

看護学部は椋山女学園大学の7番目の学部として平成22年4月に発足した。本学部は『人間になろう』という学園の教育理念のもと、看護職者に求められる豊かな人間性育成を基盤として、幅広い専門的知識と優れた技術を兼ね備えた看護職者の養成を目指している。

現在の看護職者を取り巻く諸問題を挙げると、第一に、看護師の質の向上という目標は4年制大学の看護教育に課せられたものと考えられる。次の問題としては、日本における高齢化社会の到来、臨床医療の高度化、医療現場における院内感染の拡大、患者権利の保障に伴うインフォームド・コンセントの徹底、一方で看護学実習における介入行為に伴う看護行為の制約など、社会や保健医療を取り巻く環境変化に伴い、臨地実習のあり方の見直しや、看護教育内容を絶えず工夫する必要が大きな課題となっている。

本学部では、これらの医療現場の変化と社会の要請に的確に対応し、医療現場の多様な問題に真摯に向かい合い、コミュニケーション能力や医療のグローバル化に理解をもち、生命への畏敬と使命感を持った看護職となりうる人材の養成を目指している。

学部の構成は看護学科1学科である。平成22年度の入学生については、看護師国家試験受験資格、保健師国家試験受験資格を取得できる、所謂、統合カリキュラム(卒業単位128単位)を適用している。なお、本学部では養護教諭一種免許状を取得できる選択コースも平成23年4月よりスタートさせ、第1期生を対象に開始される。

以上の目的を達成するために、看護職に必要な人間味あふれる豊かな情操と確かな実践力を修得するためのカリキュラムを展開し、そこには『人間になろう』という教育理念の中で培われた「人間論」を始め、先行6学部の教育・研究実績が織り込まれ、多様化する看護実践能力修得を目指した総合的学習を展開している。

- ① 「人間関係論」、「臨床心理学」、「カウンセリング論」、「ボランティア論」などの講義および演習では、看護職に欠くことのできないコミュニケーション能力の形成に力を注いでいる。
- ② 看護実践能力の形成のために、近年重要性が増している院内感染予防に関する知識を会得するために、「感染予防学」を専門基礎科目に設定し、「感染予防学演習」を教授する。
- ③ 食育の重要性が社会的に認識されていることを受け、本学部では「栄養代謝学」と「栄養治療論」を設けている。この演習では、調理実習において、治療食と、さらに各年齢に応じた食育を理解するために、離乳食から老人食、妊娠褥婦食までの年齢食の実習を実施する。
- ④ 医療のグローバル化に対応できる看護職を養成するために、外国語教育のカリキュラムを編成し、ネイティブスピーカーによる医療英語の時間を第1学年の1年間に実施する。これにより、学生は英語聴力をほぼ身につけることができ、さらに国際的な視点で健康問題を理解し、看護を通じて国際協力、支援する授業も予定している。

(総括評価)

開設して未だ1年しか経ておらず、授業も教養教育科目に始まり、専門基礎科目(専門科目である看護学を学ぶために必要な基礎となる科目)が進み、専門科目の導入科目ともいえる基礎看護学が30%程度進んだところなので評価は難しい。上記の項目については、教員の教育研究活動を大学がまとめて報告する『大学年報』、全学FD委員会が取りまとめた学生による授業アンケート調査、教員によるリフレクションペーパー、『椋山女学園大学研究論集』、『看護学部紀要』などで公表している(いずれも発表済み)。概して、この1年目は学部としての基礎固めをすべく努力した。開設1年目の特記すべき事柄について以下に示す。

- ① 平成22年度入学生は105名(志願者総数665名、定員100名)であり、看護職に対して希望を抱いた質の高い学生を確保できた。
- ② 早期体験実習は、名古屋大学医学部付属病院および名古屋市内の8か所の介護老人保健施設で、平成22年7月26日(月曜日)から7月30日(金曜日)に学生を52名と53名の2グループに分けて行った。名古屋大学医学部付属病院での実習は初めてのこともあり、名大看護部が企画した病院概要オリエンテーション(7月14日午前、本学教員22名参

加)、病棟概要オリエンテーション(7月14日午後と7月15日、本学教員13名参加)に参加し、事前研修を行った。次に、学生の実習への導入をスムーズにするために、6月29日(5限目)に、名大看護部から2名の看護部看護師に臨床講義をお願いした。これは学生が看護業務を身近なものとして捉える気持ちを持ち、看護職に対する憧れをさらに抱き、看護への関心が高まることによって、臨地実習への躊躇する気持ちを和らげたと評価できる。

同様に介護老人保健施設からも保健師の講義を早期体験実習に備えてお願いし、学生の実習施設へのイメージ作りを鮮明にし、実習への意欲を増す効果があった。このような準備をして早期体験実習に取り組んだ結果として、この実習の意図するところの第1学年学生への今後の学習への動機付けを図ることについては、概ね達成でき、確かな看護実践能力形成への導入を果たした。

- ③ 大学生活へのガイダンス科目であるファーストイヤーゼミは、全ての教授・准教授・講師・助教の24名が4～5名ずつの新入生を受け持ち、第1学年前期に15回コマのゼミを行った。全教員ゼミとも、学生の授業評価は満足のいくものであった。内容は各教員が工夫を重ね、単一の内容に揃えることはできなかったが、概ね大学生活への導入科目としては満足のいくものであり、現在は105名全員が揃って第2学年を迎えようとしている。
- ④ 24名の教員はそれぞれ出身学校も異なり、教育歴も異なり、教育歴を持たなかった教員もいるため、学部内で教育能力の向上に努めた。まず、各講義室のAV機器使用方法(平成22年4月2日)、学内の3実習室(基礎・成人看護実習室とICU実習室、小児・母性看護実習室、老年・地域・精神看護実習室と精神看護面談室)の教材機器の取り扱い方法(4月25日)、共同の演習・実験室(感染演習・実験室、生化演習・実験室、生理演習・実験室、資料・試料室)の機器の取り扱い説明(4月26日)をほぼ全教員が受けた。
- ⑤ 臨地実習を効果のあるものにし、また学生・教員の安全を確保するために、感染症講義を行った。医療現場での感染予防対策として、実際に実施されている院内感染予防方法と院内感染チェックシステムの講義を、名古屋大学病院で院内感染防止に取り組み、その実績を上げてきた細菌学専門教授をお願いした。まず、ほぼ全ての教員を対象に(6月21日)、次に早期体験実習を控えた1年生学生を対象に、臨床現場に出る前に、注意すべきこと、予防接種の必要性などを周知した。そして、感染アクシデントが発生した場合の対処法についても周知させた。
- ⑥ 次に、教員の研究活動活性化の取り組みとして、科学研究費申請のための特に助手・教員向けの講習会(7月1日)を、学内教授が経験談を中心に指導講演した。この成果として、平成23年度科研費申請者が18名にも達した。
- ⑦ 看護教育に対する、特に保健師・助産師教育に関する指定規則の改正に伴い、助手を含めて全教員の間で看護教育情報交換会を開いた(5月25日、6月7日、6月28日の3回)。また、保健師教育選択制導入に向けて、カリキュラム検討委員会を平成22年7月から組織して、その検討結果の報告会を11月18日と平成23年3月17日に開き、構成員全員に椋山女学園大学看護学部を目指す教育課程改正案を周知し、構成員からの意見も聞いた。
- ⑧ 医療のグローバル化に対応できる看護職を養成するための外国語教育のカリキュラム編成では、第1学年の通年にわたり、「外国語(英語)Ⅰ」(前期)及び「外国語(英語)Ⅱ」(後期)として、医療英会話の内容を盛り込み、週3回の1コマ40分で開講した。全学生が必修であり、学生にも好評であった。ネイティブスピーカーによる実践的英語力とともに、異文化理解の機会をつくったと考える。